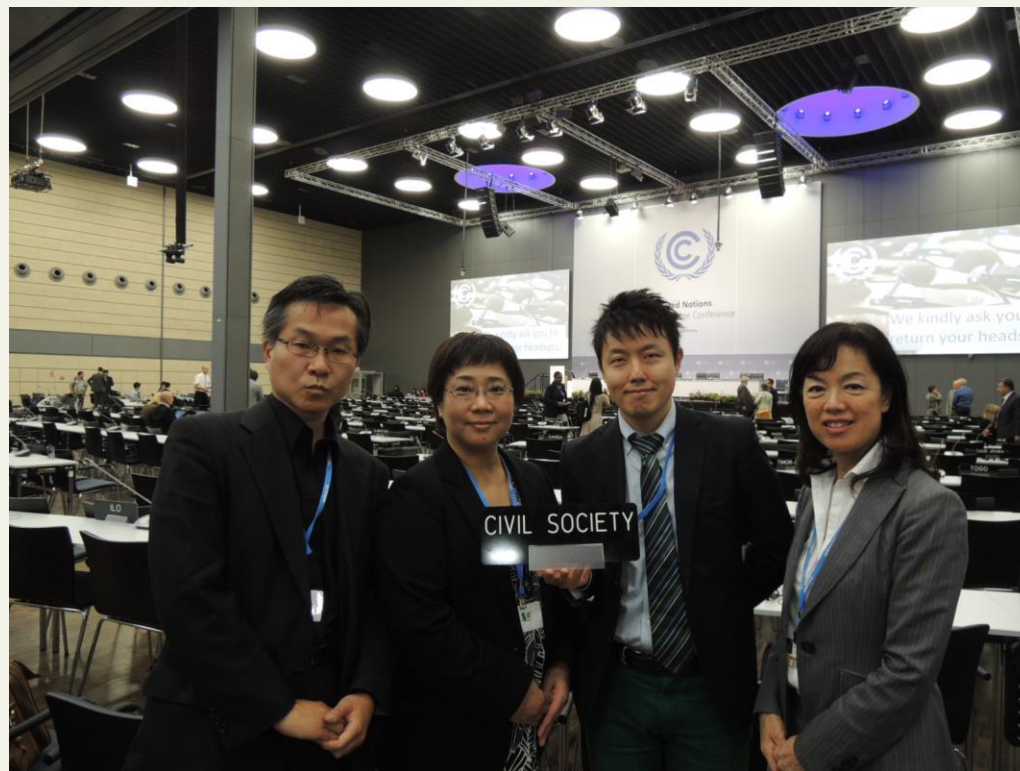




2015年パリ合意実現に向けた交渉 ～ボン会議SB42 & ADP2.9交渉～



SB42 ADP2.9(2015年6月)

ボン会議終了時に CANジャパンメンバーと

2015年7月2日(木)

WWFジャパン

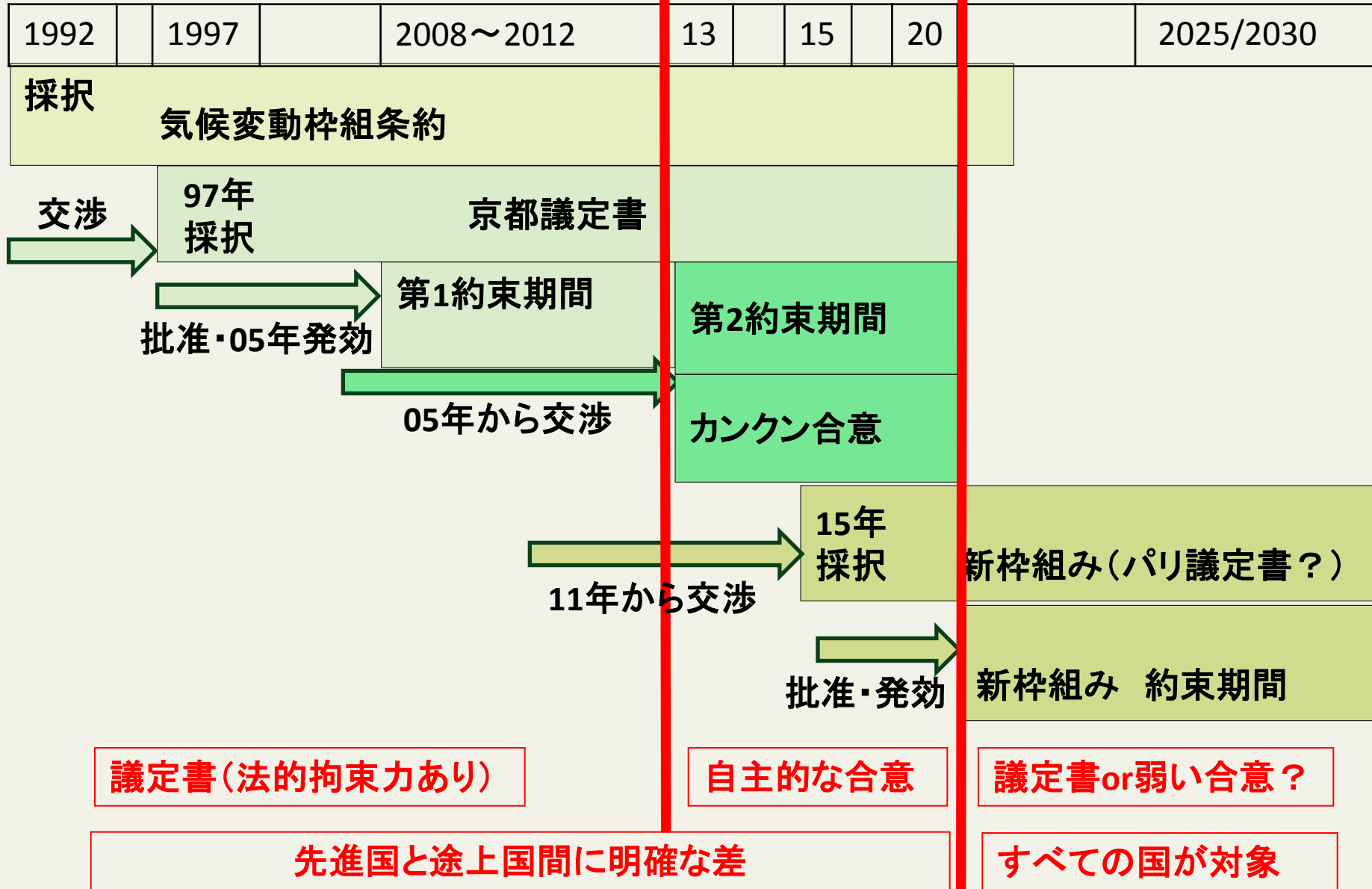
気候変動・エネルギー プロジェクトリーダー

小西雅子

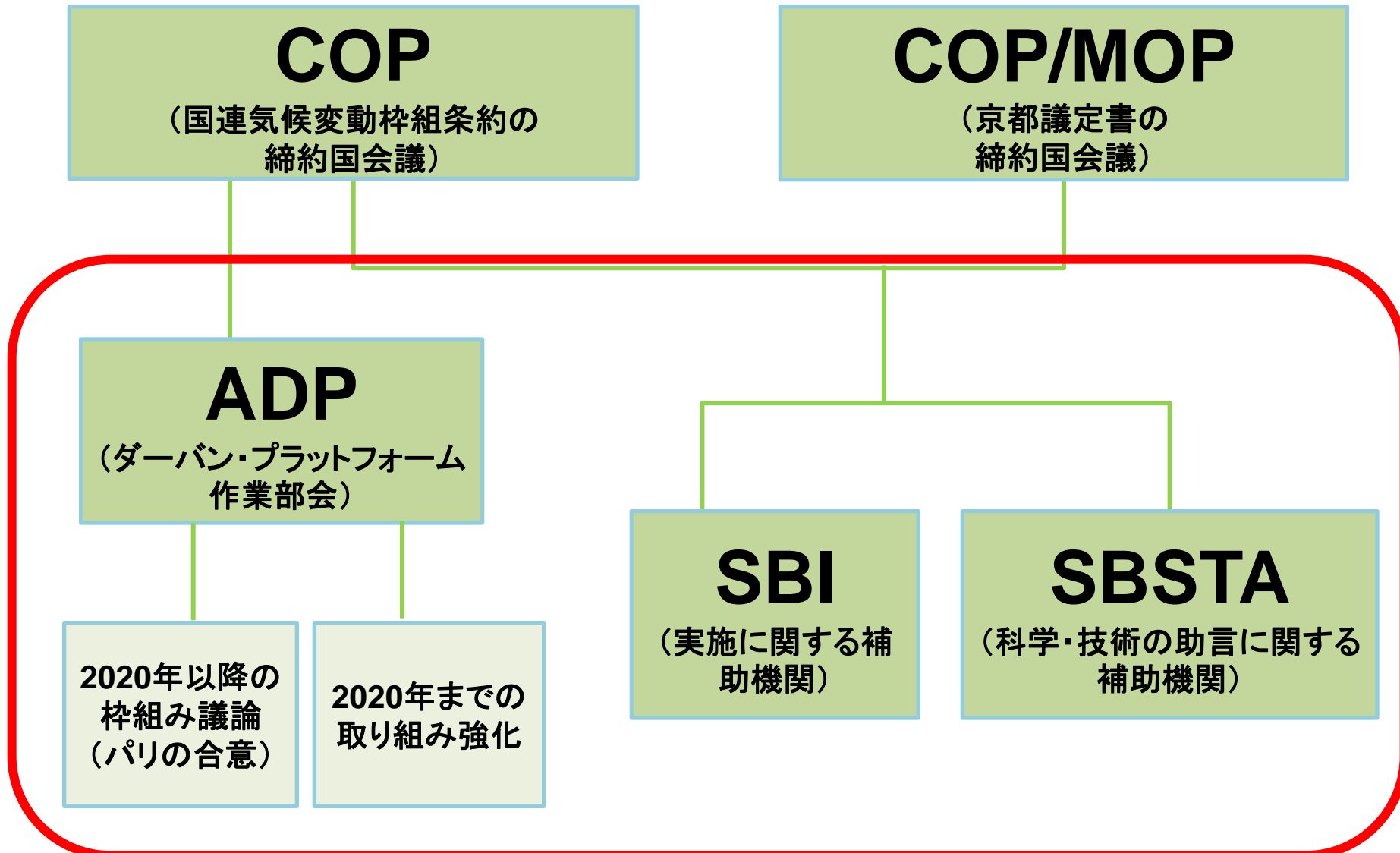


ボンの新会議場：自然採光と太陽光発電の環境配慮！

気候変動に関する国際条約の歩み



国連気候変動会議の構造



COP

(国連気候変動枠組条約の
締約国会議)

COP/MOP

(京都議定書の
締約国会議)

ADP

(ダーバン・プラットフォーム
作業部会)

2020年以降の
枠組み議論
(パリの合意)

2020年までの
取り組み強化

SBI

(実施に関する補
助機関)

SBSTA

(科学・技術の助言に関する
補助機関)



ボン会議の見どころ

- ① 2020年以降の国際枠組み「パリ合意」の交渉
テキスト案：進展が見られた
- ② 2020年までの先進国の温暖化対策の国際評
価：日本も登場
- ③ 2020年以降の削減目標について：世界の5分
の1の国が2020年以降の目標草案を提出、日
本の2030年目標草案も政府原案公表



① 2020年以降の国際枠組み「パリ合意」の交渉テキスト案：進展が見られた

国際交渉とは、温暖化対策の約束事を法的文書で合意する、という作業。合意されるべき文書の案が出て、それをベースに交渉が進んでいく、その形が整っていくことが「進展」と言える

第1回準備会合 (ADP2.8 2月ジュネーブ)

✓ ジュネーブ・テキスト (90pp): パリ合意のドラフト

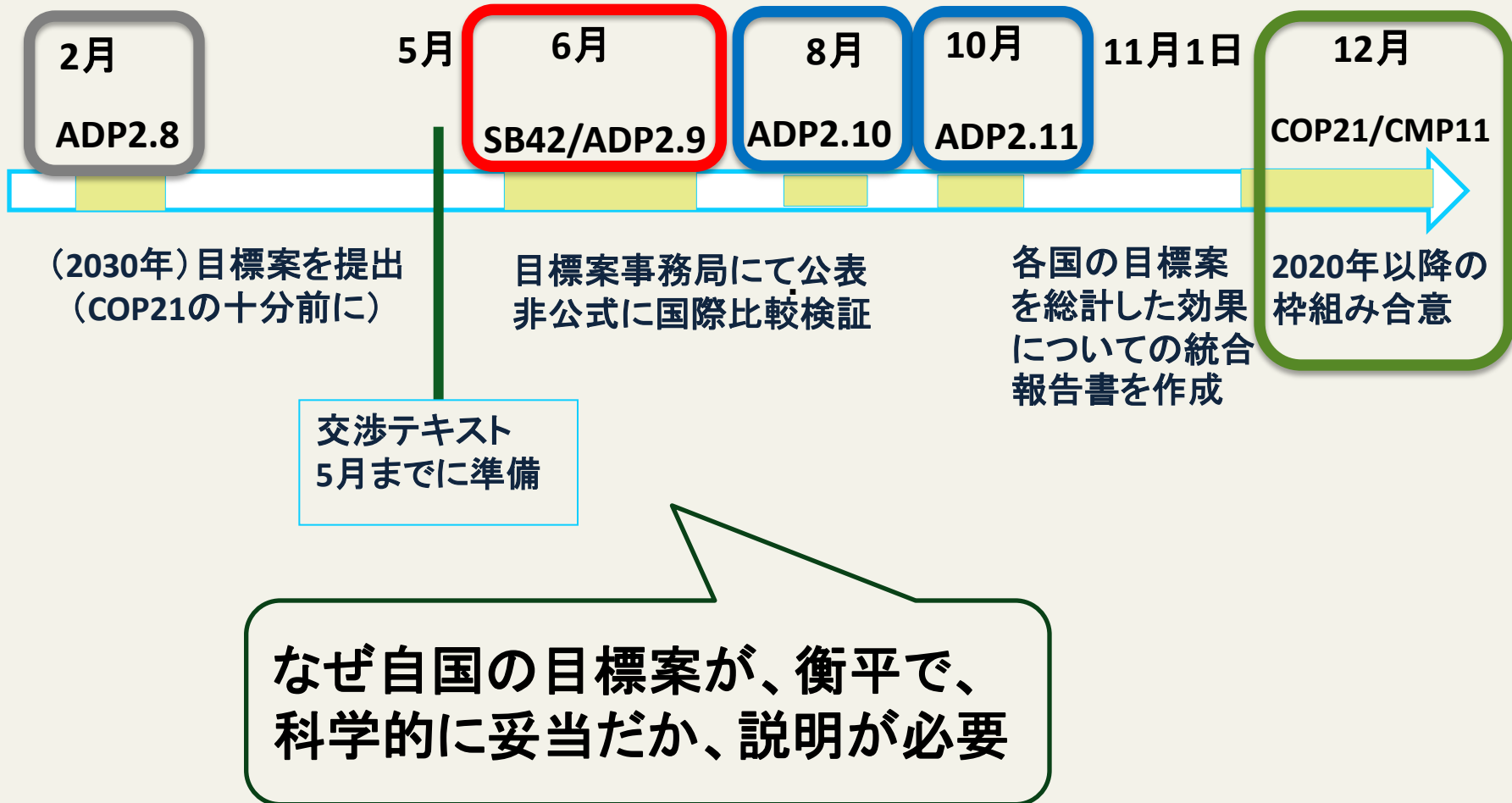
第2回準備会合 (SB42&ADP2.9 6月ボン)

✓ セクションごとに整理統合が行われ、選択すべき争点が少し明瞭化されて、ほんの少し短くなった (85pp)

✓ 作業ドキュメント: 各国の言い分のまとめ



2015年の国際交渉のプロセス





第3回準備会合ADP2.10までに準備すること (ADP2.10 8月31日～9月4日)

“総合的なパリ合意案”（パリ議定書になるのか、その他の名前になるのかはわからないが、便宜的に「パリ合意」と呼ぶ）を、まず共同議長が作って、7月24日に各国に交渉のベースとして示すことになった

- ✓ 明確な選択肢を提供する形、しかし各国すべての見解は削除されることはない
- ✓ COP決定になるのが適当な箇所、パリ合意に入れるのが適当な箇所を分けて示す
- ✓ 本質的な議論を必要とする箇所は、“総合的なパリ合意案”に入れずに、ボン(ADP2.9)の整理テキストに残す
- ✓ 8月26日から30日まで、共同議長と各国のコンサルテーション（各国の矛盾する意見をすべて反映した合意文書案を作るというのは、非常に困難な作業。出来上がった共同議長案を見て、「これは受け入れられない」と各国が紛糾して、貴重な第3回会合(ADP2.10)における議論が滞るのを避けるため)



本質的な議論はまだこれから

ジュネーブ・テキストの項目

A:序文

B:定義

C:一般

D:緩和

E:適応/損失と被害

F:資金

G:技術意見

H:キャパシティビルディング

I:透明性(算定・報告・検証)

J:タイムフレーム(サイクル)

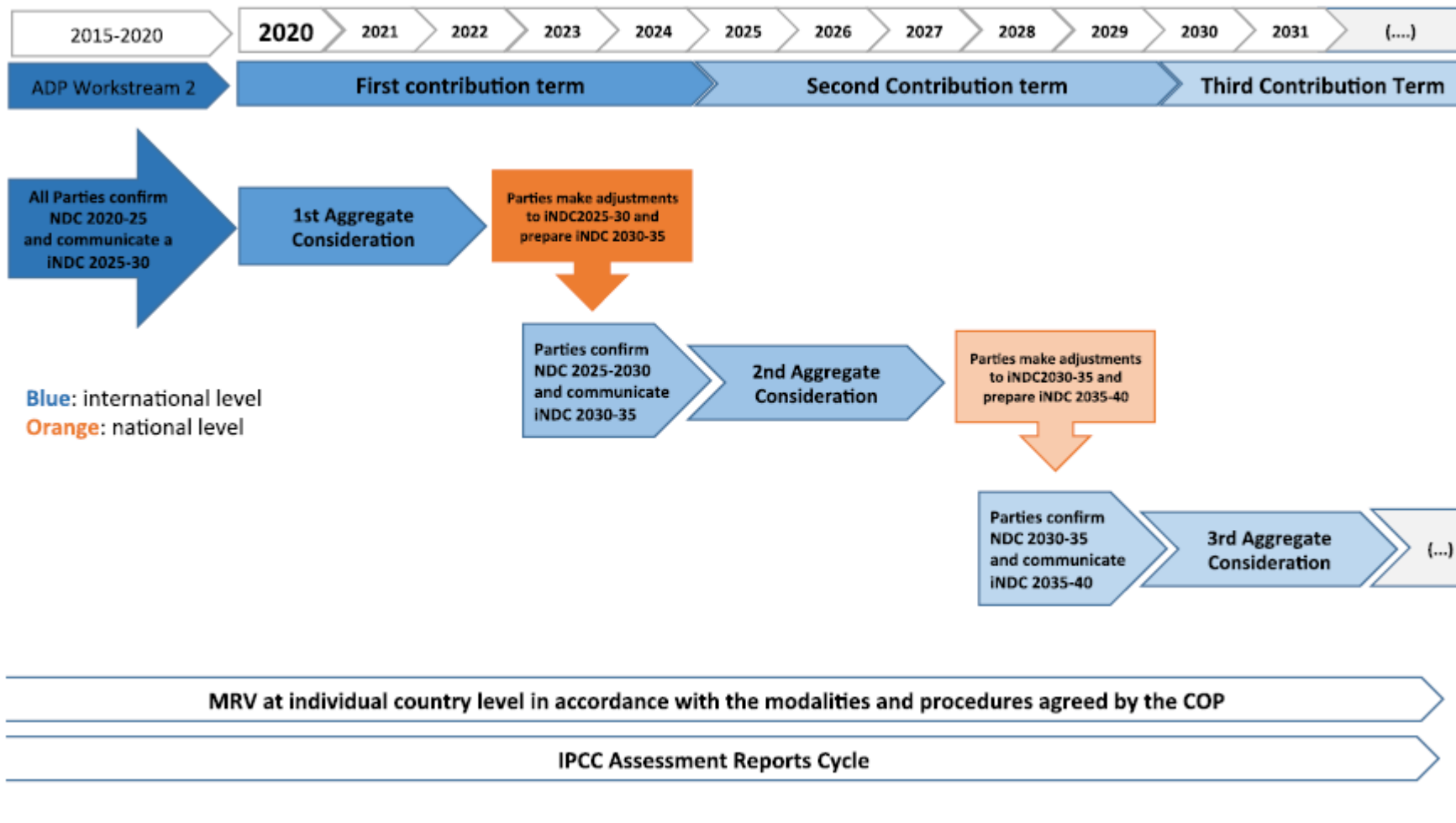
K:遵守

L:プロセス

項目を超えた議論点

- ✓ 差異化・衡平性(従来の先進国・途上国間や各国間の衡平性をどのように考え、いかに差異化するか)
- ✓ 何をパリ合意に入れて、何をCOP決定にするか
- ✓ パリ合意の法的形式および目標の法的拘束力をいかにおくか

タイムフレーム(サイクル)の議論とは？ ブラジル提案を例に



出典: UNFCCC ブラジル提案(2013年11月6日提出)



「タイムフレーム」の議論の背景

- ✓ パリ合意“2度未満達成シナリオ”はほとんど不可能であろう
- ✓ しかし、パリ合意は“2度未満達成シナリオの通過点”と位置づけ、その後に削減量を増加させていく“サイクル”が、合意されれば次善の策ではないか？
- ✓ 今までのように、京都議定書、コペンハーゲン合意、カンクン合意、など紆余曲折の国際交渉を経て、その都度制度の存続をかけた交渉を繰り広げられることは避けたい
- ✓ そのためには、2030年を超えた長期目標がなるべく具体的で、各国のコミットメントを強く促すものであること
- ✓ パリ合意が、長く続く制度が構築される一歩という位置づけになることが重要。つまり**サイクルが必要**となる。たとえば約束期間を5年とか10年などと決めて、その際には自動的に次の目標を決めるサイクルになり、しかもその**目標は前の約束期間を上回っていく**ことなどが決まれば、上昇スパイラルの構造になる

「差異化」をめぐる論点

削減目標の形式

(e.g. 総量か原単位か、BAU比か、
基準年比か)

削減目標の性質・義務

(e.g. 国によって義務かどうか違
う？LDCは？)

削減目標に支援有無条件をつけるか？

(e.g. ここまでは独力で、ここからは支援があ
れば)

サイクル

(e.g. 先進国・途上国で分け
る？それとも？)

資金支援の義務・規模

(e.g. 誰がどれくらいの資
金支援をするのか)

差異化

長期目標

(e.g. ピークの時期が違
う？)

適応の扱い

(e.g. 途上国は適応行動計
画だけでもよい？)

遵守における扱い

(e.g. 遵守制度の対象とな
るのは？)



「先進国 (developed countries; Annex I Parties)」と「途上
国 (developing countries; Non-Annex I Parties)」という言
葉は使い続けるのか？



② 2020年までの先進国の温暖化対策の国際評価： 日本も登場

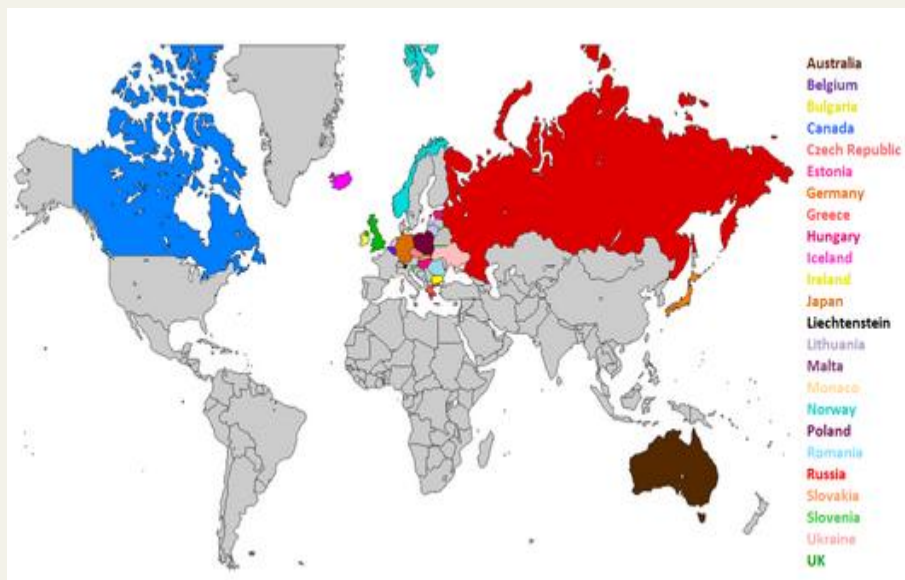
国際評価・レビュー(IAR: International Assessment and Review)

- ✓ カンクン合意で決まった2020年までの温暖化対策の取り組みで、先進国の削減目標に対する国際的な評価とレビュー＝実施状況の遵守を促す仕組み
- ✓ 2014年のCOP20で、17か国がIARを受けており、今回のSB42で、先進国のうち24か国(日本含む)が、各国から事前に寄せられた質問に答えた

http://unfccc.int/focus/mitigation/the_multilateral_assessment_process_under_the_iar/items/8982.php

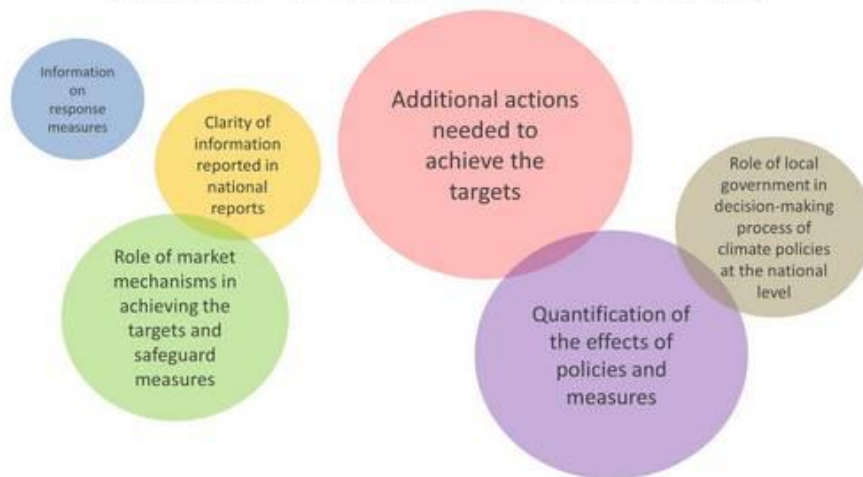


SB42で国際評価を受けた24か国



(オーストラリアやカナダ、日本、ドイツ、イギリスなど)

事前にオンラインで質問: 332
当日の質問: 217





日本への質問

- ✓ 「1990年比25%削減を公表していたが、2005年比3.8%削減に目標を激減させたが、これは暫定目標ということだが、いつ確定目標を出すのか？」
- ✓ 「非常に低い目標だが、確定目標の際には上げるのか？」など

返答：日本は「原発の再稼働が未定である中、2020年のエネルギーミックスが決まらないので、まだ確定目標は出せない」

*ドイツなどへの質問では、「ドイツは低炭素社会へのよい範を示してくれてありがとう。その知恵を分けてほしいのだけど・・・」といった賛辞を込めた質問が相次ぎ、いろいろ批判はあっても世界の尊敬を集めていることを感じさせた



③ 2020年以降の削減目標について:

世界の5分の1の国が2020年以降の目標草案を提出
日本の2030年目標草案も政府原案公表

- ✓ 同じドイツで開催されたG7で、日本も2030年目標、2013年度比26%削減を発表
- ✓ しかしその内容が、基準年を、排出量が多く欧米との比較で見かけ上有利に見える2013年としたことや、再エネを抑制している目標であること、またCO2排出量の多い石炭火力を国内外で推進しようとしているといったことで、世界の市民社会からの非難が集中
- ✓ 世界の気候変動に関する900団体のネットワークであるCANから、準備会合ではめったに出ない化石賞(交渉を最も妨げている国に贈られる不名誉な賞)を3つも単独受賞

国名	目標草案（INDCs）概要
スイス	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、1990年比で、温室効果ガス排出量50%削減 ・2025年までには、1990年比で、35%の削減が予期
EU	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、1990年比で、温室効果ガス排出量を国内で少なくとも40%削減
ノルウェー	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、1990年比で、温室効果ガス排出量を国内で少なくとも40%削減
メキシコ	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、BAU比で、温室効果ガスおよび短期寿命気候汚染物質の排出量を合わせて25%削減（GHGのみでは22%削減） ・ただし、条件次第で、同40%削減（GHGのみでは36%削減）への引き上げを示唆
アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年までに、2005年比で、温室効果ガス排出量を26～28%削減。28%削減へ向けて最大限の努力
ロシア	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、1990年から70～75%抑制（90年比20～25%削減）が長期的な指標 ・森林吸収量の最大限算入が条件
ガボン	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年までに、BAU比で、温室効果ガス排出量を少なくとも50%削減
リヒテンシュタイン	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、1990年比で、温室効果ガス排出量を40%削減する。
アンドラ	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、BAU比で、温室効果ガス排出量を37%削減する。
カナダ	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、2005年比で、温室効果ガス排出量を30%削減する。
モロッコ	<ul style="list-style-type: none"> ・無条件目標：2030年までに、BAU比で、温室効果ガス排出量を13%削減 ・国際的な支援を条件：2030年までに、BAU比で、温室効果ガス排出量を32%削減
エチオピア	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年時点での、正味の温室効果ガス排出量を1億4500万トン（CO2換算）に抑制

6月30日に新たに中国、韓国、セルビア、アイスランドが 目標草案を国連に提出

国名	目標草案(概要)																				
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までのなるべく早くに排出を減少に転じさせる ・国内総生産(GDP)当たりCO2排出量を05年比で60~65%削減 ・1次エネルギー消費に占める非化石燃料の比率を約20%に引き上げる ・再エネの意欲的な目標 <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">2014年までの設備導入量</td> <td style="padding-left: 20px;">風力</td> <td style="padding-left: 20px;">98.81</td> <td style="padding-left: 20px;">GW</td> <td style="padding-left: 20px;">(2005年比90倍)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">PV</td> <td style="padding-left: 20px;">28.05</td> <td style="padding-left: 20px;">GW</td> <td style="padding-left: 20px;">(2005年比400倍)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">今後</td> <td style="padding-left: 20px;">風力</td> <td style="padding-left: 20px;">200</td> <td style="padding-left: 20px;">GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">PV</td> <td style="padding-left: 20px;">100</td> <td style="padding-left: 20px;">GW</td> <td></td> </tr> </table> <p style="padding-left: 40px;">(ちなみに原発の設備容量は2014年 19.88GW (2005年比2.9倍))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石炭の総消費量を抑える。 ・排出量取引制度(7地域と都市でパイロット)国レベルの取引制度へ発展 	2014年までの設備導入量	風力	98.81	GW	(2005年比90倍)		PV	28.05	GW	(2005年比400倍)	今後	風力	200	GW			PV	100	GW	
2014年までの設備導入量	風力	98.81	GW	(2005年比90倍)																	
	PV	28.05	GW	(2005年比400倍)																	
今後	風力	200	GW																		
	PV	100	GW																		
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年にBAU(850.6MtCO2eq.)よりも温室効果ガス排出量を37%削減 ・国際炭素市場からのクレジットを一部使用 																				

INDCsについて

◆ UNFCCC INDCs Portal

<http://www4.unfccc.int/submissions/indc/Submission%20Pages/submissions.aspx>

その他の参考になるINDCsまとめサイト

◆ Climate Action tracker (INDCs 評価)

<http://climateactiontracker.org/>

◆ CANジャパンウェブサイト(日本語)

<http://www.can-japan.org/>

◆ WWFジャパン 目標草案まとめサイト(日本語)

<http://www.wwf.or.jp/activities/2015/04/1258310.html>